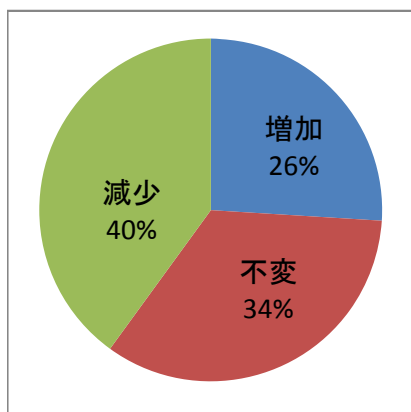


データから見た業界の動き

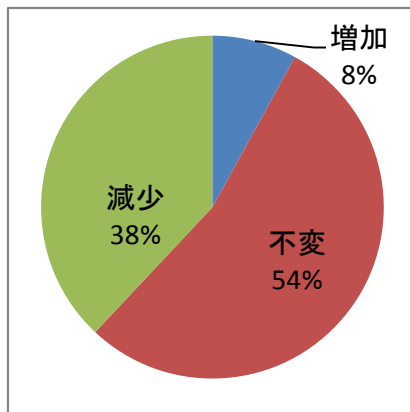
(平成25年8月分)

● 2012 / 8

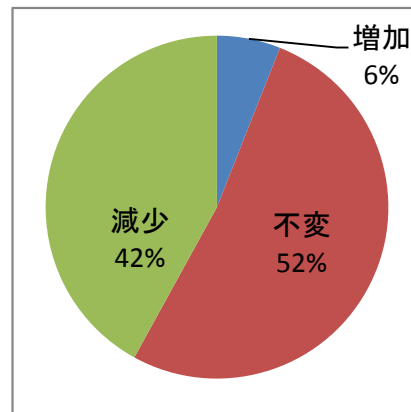
売上高 (前年同月比)



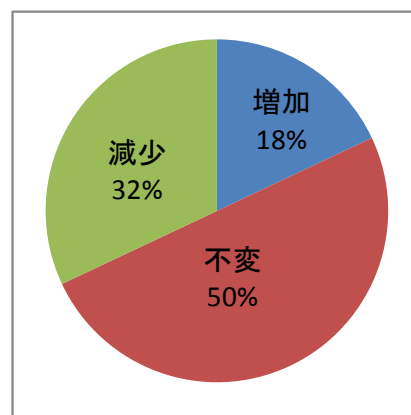
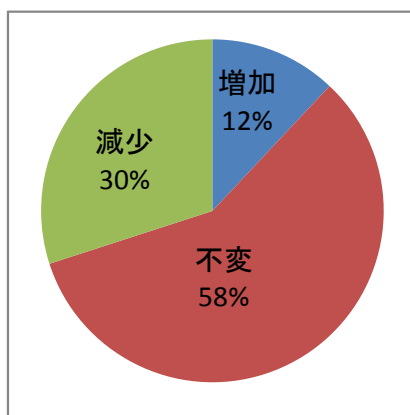
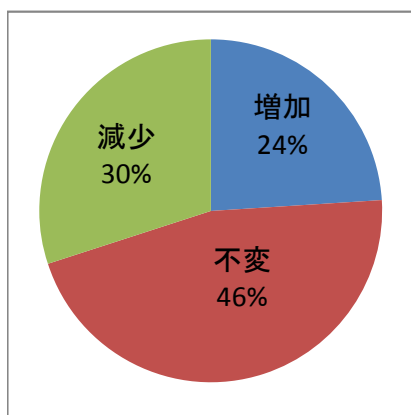
収益状況 (前年同月比)



景況感 (前年同月比)



● 2013 / 8



対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

	製造業			非製造業			合計		
	2012/8	2013/7	2013/8	2012/8	2013/7	2013/8	2012/8	2013/7	2013/8
対前年・前月・当月									
売上高	-5	-15	-30	-20	10	10	-14	0	-6
収益状況	-25	-5	-30	-33	-13	-10	-30	-10	-18
景況感	-25	-10	-30	-43	-13	-3	-36	-12	-14

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D. I値

概 況

本県8月の景況は、全業種のD I 値が、売上高-6（前年同月比+8）、収益状況-18（前年同月比+12）、景況感-14（前年同月比+22）となっており、前年同月比は全ての項目で大きく改善した。業種別のD I 値では製造業で、売上高-30（前年同月比-25）、収益状況は-30（前年同月比-5）、景況感-30（前年同月比-5）。非製造業では、売上高+10（前年同月比+30）、収益状況-10（前年同月比+23）、景況感-3（前年同月比+40）となった。

前月比では、製造業の売上高は15ポイント、収益状況が25ポイント、景況感は20ポイントと全ての項目で大きく悪化した。非製造業では、売上高は不変であったが、収益状況が3ポイント、景況感が10ポイントとD I 値が改善した。

情報連絡員による県内の8月の業況報告は、全国的に猛暑となり夏季関連商品等に好影響をもたらした。また、消費税率引き上げ前の駆け込み需要によって住宅着工や緊急経済対策効果による公共投資の本格化により建設業を中心に関連業種へと改善の広がりが伺える報告が多く見られた。

製造業では、原料や燃料等の値上げによる利益確保が難しいとの報告が多かった。また、アベノミクス効果による景気回復の兆しはあるものの、中小企業の現場までは到達していないとの報告もあった。

非製造業は、シリアなど不安定さを増している中東情勢等の動向による為替変動リスクや輸入価格の上昇、原材料高や労務費高騰などコスト負担が高まることを懸念する報告も多く見られた。

業界の声

情報連絡員には、景気動向の変化、現状とその背景などについて、業界または組合員全体の動向・予測(売上高・原材料等経費・資金繰りなど)についてコメントを求めた。

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	伊勢エビや鮑等の生鮮の取扱いやギフト関係も好調。全体の売上は、前年同月比109%。しかし、円安による輸入原料の高騰で利益率は低下。
食料品（洋菓子製造）	猛暑の影響からデパート関連が前年度割れとなったが、量販店や輸出向け等は依然好調。全体の売上は、前年同月比113%。今後、小麦粉の値上げもあり採算が厳しくなると予測する。
食料品（菓子）	猛暑が続く菓子業界は売上が落ちこんでいる。
家具製造	アベノミクス効果の影響が多少景気が好転している。しかし、材料等の高騰や消費税増税等、マイナス要因もあり先行きは不透明。
鉄鋼・金属(1)	電気・電子・デバイス関連は、引き続き不調。自動車関連は、ハイブリッド車の人気によりメーカーからの部品受注により繁忙。しかし、先行きは不透明。
電気機器	アベノミクス効果が少しずつ出てきている感があるが、まだ小規模や零細企業にまでは実感がない。
その他(宝飾)	デパート等では、高級品の売れ行きが好調との話もあるが、産地は依然厳しい状況にある。

● 非製造業

卸売（宝飾）	アベノミクス効果は、まだ地方までには届いていない。
小売（青果）	猛暑のため野菜は高値で推移したが、果実は消費不振により価格が低下。
小売（食肉）	猛暑の影響か売上が減少。米国産を中心とした食肉が高騰しているため利益確保が難しい。
小売（電機製品）	猛暑によりエアコン・冷蔵庫が好調、全体の売上の牽引となった。
小売（石油）	エジプトの政情不安とシリア情勢の緊張感が高まり、中東原油が高騰したため原油の輸入コストも上昇しているが、県内の小売価格は横ばいで推移。
商店街（1）	猛暑のため来街者が減少。昨年春オープンした衣料品店が、今月末で閉店し郊外に移転することになった。
商店街（2）	富士山世界文化遺産登録やアベノミクス効果等で観光客が若干増加傾向。飲食を中心に活気が出てきた感がする。また、空き店舗も飲食系の出店により街全体が良いムードになりつつある。
不動産取引	来春の消費税増税に伴い住宅取得減税や補助金制度等により住宅の駆け込み需要が減少。
宿泊業	8月は、陸上の関東大会やお盆の客足も昨年より微増。富士山世界文化遺産登録や夏の各種イベントの定着により集客効果が上がった。
美容業	猛暑により髪を短くする人が増加傾向にあるが、客単価は減少している。
廃棄物処理（産廃系）	廃棄物処理事業者は、他業種を兼業するケースが多く景気低迷により廃棄物処理運搬以外の業績悪化がみられ苦悩している。そのため、新たな業態化の取り組みを始めている企業も見受けられる。
警備業	夏季イベントや公共工事の増加等により収益が改善傾向にある。また、一部国の発注工事における労務単価も500円上昇した。交通誘導員の不足が深刻化している。
建設業（鉄構）	首都圏の発注工事が活発なため、県内業者の多くは県外からの受注機会が増加している。また、県内の物件見積りも増加傾向にある。
設備工事（管設備）	7月の山梨県の新設住宅着工戸数は、359戸（前年同月比23戸減）、甲府市については、62戸（前年同月比56戸減）。着工減による資材の共同購買事業等への影響が懸念される。
運輸（タクシー）	地域適正車両数の規制強化に伴い1台減車になり、売上は昨年に比べ減少したが、乗務員1名平均の売上は微増した。しかし、今後の見通しは厳しい。
運輸（トラック）	燃料価格の高騰と労働時間の管理強化で収益、売上共に厳しい。